

# 10年間で計1千本植樹

## カブトムシの森づくり

町自然館  
松田自

松田町西平畑公園内の町自然館(渡邊建雄館長、同町松田惣領)では、カブトムシが生息できる森づくりを新たに始める。豊かな命が育まれる自然環境を松田山の中腹に整え、子供たちが屋外で体を動かし、自然に親しめる場としても機能させる。数年間かけて広葉樹、照葉樹合わせ1000本以上を植える計画。

大きな目的は①五感(カブトムシが生息できる森づくり(松田山本来で楽しむ森づくり(カブトムシ)②ふるさと)の植生の復元)――。



クヌギやコナラの苗木45本が、樹木園に新しく植えられた

具体的には、同館隣の樹木園に多種類の木を植え、長い期間にわたって育てる。活動の第1弾として11日午前、雑木林育成に向けての植樹があった。種類はクヌギやコナラなど約40種。同町や近隣地域に住む親子らが参加し、高さ1メートル程度の苗木を樹木園の一角に植えた。以前は松田の市街地にもちよっとした林があったが、いまでは伐採されて駐車場に姿を変え、身近な場所でも

カブトムシの幼虫はクヌギやコナラの腐葉土の中で冬を越し、土

に混じった栄養たっぷりの葉を食べて大きくなる。雑木林づくりでは植樹だけでなく、昆虫の命をつなぐ環境も参加者の手で整える。また、自然館ではカブトムシを独自に育てている。同館または樹木園に飛んできた雄と雌を捕まえた結果、卵が生まれて幼虫へと成長。この個体を雑木林に放ち、新しい森で命が次々と育まれる姿を目指す。

進和学園が苗提供障害者の仕事の場事業には社会福祉法人進和学園(平塚市万田)が協力し、苗木を無償で提供。障害者の生活・就労支援施設を運営しており、樹木園での作業(植樹や除草)が利用者の仕事の場になる点を重視し、自然館との連携を決めた。苗木を栽培するのは、5つの福祉施設からなる「どんぐりプラザ」の利用者。同法人のサポートを受け、樹木育成のノウハウを学んでいる。森づくりに積極的に参加している人たちは今後、樹木園への立ち入りが自由。立派な雑木林ができるまでは少なくとも10年ばかり、息の長い活動となる。渡邊館長は協力者に感謝し、「森に集まる命(樹木や昆虫、野鳥)を中心に、さまざまな自然のつながりがあることを知ってもらえたら、とても有意義です。子供たちに対しては、屋外での自然体験の場をつくりたい」と、うれしそうに話した。